

# 西トップ遺跡の調査修復

## －仏教テラスとその周辺の調査－

### 1 はじめに

奈文研はカンボジア内戦終結後の1992年よりアンコール遺跡に携わる人材養成を見据えたアンコール遺跡の調査と保全活動に着手した。2002年からは西トップ遺跡の調査を現地の文化財保護機関であるアンコール地域保護整備機構（APSARA）と共同で開始した。西トップ遺跡は中央祠堂・南祠堂・北祠堂が東を正面として一列に並び、中央祠堂の東正面には仏教テラスが接続し、これらすべての構造物を囲むラテライト石列と結界石によって寺域が形成されている。2011年に開始した三祠堂の修復作業は、南祠堂、北祠堂、中央祠堂の順に順次進め、2023年末に三祠堂に係るすべての修復作業が完了した（図12）。（佐藤由似）

### 2 仏教テラスの修復

三祠堂の東面に張り出す仏教テラスの修復には、第16・17次調査<sup>1)</sup>終了後の2023年12月に着手した。仏教テラスの外装は南北面と東端に施されているが、事前の発掘調査が既に完了した部分である南北面外装の解体修復を先行して実施した。解体にあたっては、石材の原位置を記録した。修復は南面外装から実施し、2024年2月から北面外装の修復に移行した（図13）。北面外装の修復は2024年5月に完了した（図14）<sup>2)</sup>。

仏教テラスの南北外装は砂岩により仕上げられるが、ラテライト製側石を裏込めにもち、砂岩製地覆石の直下にはラテライト製延石が敷かれる。このため修復作業ではまず、砂岩製の側石および地覆石を取り外し、破損箇

所の修理・補填、あるいは、破損の激しい石材については新しい石材への交換をおこなった。3段から成る砂岩製側石にはモルディングが施されており、解体に際してはこれらを慎重に記録した。砂岩製外装解体後に、裏込めであるラテライト製側石および延石の破損部材を交換してその一部を積み直し、再構築に先立っては地面を突き固めて水平を確保している。再構築後は、砂岩製外装とその内側のラテライト製側石との間の目地をモルタルで埋めると同時に、砂岩製外装の石材間の隙間にもモルタルを充填し、外装の安定化を図った。

今後は、2025年8～9月に実施予定の第20次発掘調査の後に東端部分の解体修復に着手し、仏教テラスの修復作業を完了する予定である。（山藤正敏）

### 3 ストーパーパの修復

**既往調査** 仏教テラスの北東と南東にはラテライト製の小基壇が存在しており、建築学・考古学の両面からの報告が既におこなわれている<sup>3)</sup>。上記調査時点で既に北側のラテライト小基壇は原位置を保つ石材に限られる状態であった。また、フランス極東学院（EFEO）による1920年代の古写真にも当該ラテライト小基壇とその上部に載る砲弾状のストーパーパの装飾を確認している<sup>4)</sup>。奈文研による調査開始時点では、小基壇上には砲弾状装飾は載っておらず、ラテライト製装飾は仏教テラスの北側に置かれ、砂岩製装飾は散乱石材の中から発見された。

**修復の過程** 2024年6月、ストーパーパの砲弾状装飾にあたる部材に関する部分的な補修を開始した。8月にはまず南ラテライト小基壇に着手し、レベルの調整など部分的な修復をおこなった。その後に小基壇内の基壇土を突き固め、構造の安定化を図った。北ラテライト小基壇



図12 西トップ遺跡中央祠堂・南祠堂・北祠堂修復完了状況（東から）



図13 仏教テラス北面修復作業状況（北東から）





図14 仏教テラス南北面修復完了状況（北東から）

も同様の作業をおこなった。南北小基壇上に載る砲弾状装飾は、上述のEFEOによる古写真を参考に、ラテライト製装飾は北ラテライト小基壇に、砂岩製装飾は南ラテライト小基壇にそれぞれ配置されるものと判断した。2024年9月にはラテライト製、砂岩製砲弾状装飾をそれぞれラテライト小基壇に配置し、南北ストゥーパの修復作業が完了した（図15・16）。

#### 4 ま と め

2024年度に実施した仏教テラスとストゥーパの修復は、予定通り順調に遂行することができたといえる。2025年度に仏教テラス東端部の修復が完成すれば、西トップ遺跡に属するすべての構造物の修復が完了することとなる。一方で、作業を進める中で、仏教テラスとス



図15 南ストゥーパ修復完了状況（東南東から）

トゥーパの位置関係は、アンコール・トム内に点在する他の仏教テラス寺院にはあまり見られない配置である可能性が出てきた。今後、類例調査を進めると同時に、西トップ遺跡全体の伽藍配置について再考し、遺跡周辺整備計画へ反映させていく予定である。（佐藤）

#### 註

- 1) 杉山洋・西原和代・庄田慎矢「西トップ遺跡の発掘調査－第16次調査－」『紀要 2023』。西原和代・大林潤「西トップ遺跡の調査－第17次発掘調査・2023年度建造物調査－」『紀要 2024』。
- 2) 奈文研『西トップ遺跡調査修復 中間報告12』、2025。
- 3) 『西トップ遺跡調査報告－アンコール文化遺産保護共同研究報告書－』学報第88冊、2011。
- 4) École Française d'Extrême-Orient CAM\_01493



図16 北ストゥーパ修復完了状況（北東から）